



岐阜本巣特別支援学校地域支援センターでは、地域の方々や教育や療育に関係するの方々に対して、相談対応や情報提供を行っています。コロナ禍ではありますが、感染防止に留意しつつ、来校相談、訪問支援や支援具・教材の貸出をしています。お気軽にご相談ください。

今号は、多くの相談事例でケースにみられた児童生徒の「気になる行動にどう対応してよいか？」について応用行動分析を活用した行動支援の事例をご紹介します。

気になる行動に対するアプローチ、どうしたら？

気が付くと子どもの「苦手なこと」「変わってほしいところ」ばかりが気になってしまう・・・。「ほめる」ことより、「注意」や「叱る」ことの方が自然に出てしまう。頭では「ほめる」ことが重要なのは分かっているのに・・・。そんな悩みはありませんか？

頑張ってもかわっても、何回注意しても変わらない・・・。そんなことが続くと「子どものせい」にしているませんか？「自分のせい」と感じてしまっていないですか？

『応用行動分析学(ABA)』とは

- ・行動を個人(本人)と環境(周りの人や物)との相互作用として捉える。
- ・行動上の問題の原因を発達の遅れや偏りのせいなどにせず、かかわり方の工夫で解決を図る。

行動には、何かきっかけがあります。そしてその行動によってどんな結果が生じるかによって、行動がまた起きるか、もう起きないかが変化します。行動の直後に本人にとって「うれしいもの・こと」がつくと、その行動が維持されるだけでなく、増えたり、強まったりします。行動の直後に本人にとって嫌なことがなくなっても、同じように行動は起きやすくなります。

気になる行動が続いている・・・。そこでやるべきことは「環境への介入」です。**その行動が起こるきっかけとなる環境があるはずで、それが何かを考えます。**事前に少し準備や工夫をすることで「やってみてもらいたい適切な行動」を引き出します。「適切な行動」が引き出されたらあとは褒めるのみです！ここでのポイントは、もっと褒めようでなく、褒め方の作戦を考えることです！

例

なぜ友達を叩くの？
何度も注意をしているのに減らないの？

叩いた後に教師の方を見るな。
好きな先生が来たときに、叩くことが多いな！
「叩いちゃだめ。」と注意されても嬉しそう？

注意されていても、その先生が近くに来てくれて関わるができることが行動を強化しているかもしれない。
その先生がいなくても叩くとき、誰かに見てほしいか、近くに来てほしいときが多いな。

先生とかかわりたいときには、呼んでくれたらいいのにな。

どのように呼んだらいいか伝えよう。

- ・そばに行って肩をトントン
 - ・「あー」と声を出して呼んでみよう
- 初めは近くの教師と一緒にやってみよう！
呼んだら来てくれたね！と一緒に喜ぼう！

「呼んだら来てくれた」「呼んでよかった」が続くと、叩くことが減った！！



